

令和2年度 学校評価総括評価表

| 自己評価  |  |   |  | 学校関係者評価                     | 次年度への課題と  |
|-------|--|---|--|-----------------------------|---|
| 重点課題  | 重点目標   | 評価指標と活動計画   | 評価   | 学校関係者の意見                    | 今後の改善方策   |
| 学力の育成 | (全校レベル)<br>(1) 規律ある授業の実施に努め学習態度と意欲の向上に努める。<br><br>(2) 授業時数を確保する。<br><br>(3) 個別指導を充実する。 | 評価指標<br>(1) 生徒の授業満足度調査 80%以上<br>(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位27時間以上<br>(3) 生徒の成績状況調査 年2回以上<br>(4) 欠席率 2%以内<br>(5) 生徒面談回数 1人3回以上  | 評価指標の達成度<br>(1) 生徒の授業満足度調査 (12月) 87.6% (満足・おおむね満足)<br>(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位平均26時間<br>(3) 生徒の成績状況調査 年3回<br>(4) 欠席率 3.2% (4月～2月)<br>(5) 生徒面談回数 1人3回以上 (面談週間、三者面談)   | 評定<br>A<br>B<br>A<br>B<br>A | 総合評価<br>B<br>(所見)<br>年度当初の休校措置で授業数の確保が大きな課題であった。夏期休業を大幅に短縮し、楓祭・球技大会・修学旅行などの中止によりほぼ昨年度程度の授業数を確保することができた。「学校生活の基本は授業である」ということを、事あるごとに話をしてきた結果、学習に対して多くの生徒が積極的に取り組むようになってきた。授業のみならず自発的に家庭学習に取り組む姿勢も見られるようになってきた。授業は全体的に落ち着いた雰囲気の中で実施できている。実習にも積極的に取り組む姿勢が多く見られる。しかし、まだまだ取り組みの甘い生徒もおり、単位が十分に取得できない生徒も見られた。授業力向上を目指して、授業参観週間を設けて、教員間で意見交換を行うことができた。また、ICTを効果的に取り入れた授業も増え、授業力向上が図られている。 |
|       |  | 評価指標<br>(6) 計画的な職員研修の実施状況<br>研究授業 2回以上<br>教員間の参観授業 2時間以上  | 評価指標の達成度<br>(6) 職員研修の実施状況<br>研究授業 2回 (9月・11月)<br>教員間の参観授業 1人2時間以上 (授業参観週間:1学期・2学期)   | 評定<br>B                     |   |
|       |  | 活動計画<br>(1)-1年間行事計画に基づき、教育内容の充実構築を図る。<br>(1)-2計画的に教職員研修を実施し、指導力の向上を図る。<br>(2)-1授業時間を集計し、授業時間の確保に努める。<br>(2)-2月末に各ホームルームごとに欠席率を集計し、指導を行う。<br>(3)-1定期考査及び課題テストにより学力の実態把握を行う。<br>(3)-2生徒及び保護者とホームルーム担任との面談を実施し、家庭との連携を密にする。<br>(3)-3成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。<br>(3)-4追試・補講を実施して指導を強化する。 | 活動計画の実施状況<br>(1)-1 評価規準を含んだ年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。<br>(1)-2 研究授業は2回実施した。授業参観週間を6月・11月に各2週間設定した。<br>(2)-1 夏季休業の短縮及び学校行事の精選により授業時数の確保に努めた。<br>(2)-2 欠席率を集計し、学年集会で生徒へ注意喚起を行った。<br>(3)-1 定期考査の他、4・9・1月に実力テストを実施した。<br>(3)-2 各学期当初に面談週間を設定した。長期休業中は必要に応じて三者面談を実施した。<br>(3)-3 放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。<br>(3)-4 追考査、補講は計画的に実施した。 |                             |   |

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

令和2年度 学校評価総括評価表

| 自己評価   |  |  |  | 学校関係者評価  | 次年度への課題と  |
|--------|--|--|--|--|---|
| 重点課題   | 重点目標   | 評価指標と活動計画  | 評価   | 学校関係者の意見   | 今後の改善方策   |
| 生活力の育成 | (全校レベル)<br>(1) 基本的な生活習慣の確立を図る。<br>(2) 生命尊重の意識の高揚と交通事故の撲滅を図る。<br>(下位組織レベル)<br>(1) 保護者との連携を密にし、相互理解の上で指導の充実を図る。<br>(2) 遅刻・欠席指導の徹底を図る。<br>(3) 身だしなみ指導の徹底を図る。<br>(4) 登下校指導を行う。<br>(5) 交通安全指導の徹底を図る。<br>(6) いじめを防止する。 | 評価指標<br>(1) 家庭訪問実施回数 50回未満<br>(2) 無断(理由無)遅刻者率 0.5%<br>(3) 身だしなみ指導者率 10%<br>(4) 車両定期点検の実施回数 5回以上<br>(5) 交通事故加害者数 0人<br>(6) いじめ問題件数 0件   | 評価指標の達成度<br>(1) 家庭訪問実施回数 17回<br>(2) 無断(理由無)遅刻者率 0%<br>(3) 身だしなみ指導者率 18%<br>(4) 車両定期点検の実施回数 3回<br>(5) 交通事故加害者数 0人<br>(6) いじめ問題件数 0件   | 総合評価<br>B<br>(所見)<br>コロナ過の影響で大きく学校行事等への変更があり、また生徒はもとより教員も初めての体験で、試行錯誤の学校運営の中、当初の活動計画通りとはいかなかったところがある。<br>修学困難生への対応も、家庭訪問の実施を行い早期に対応した。遅刻者はあるものの、無断での遅刻や欠席者はなく連絡は確実につけることができた。身だしなみでは、毎回同じ生徒が指導を受けることがあるが、染色等で大きく指導から外れるような生徒はいない。車両点検は、本来予定していた時期が休校のため回数は減少したが、再開後は点検を行い、交通安全講話と実技指導も行うことができた。登下校指導、交通安全指導も行うことができた。いじめ問題の早期発見のためアンケート調査を実施したが、担任が早期対応していたので、アンケート調査では問題は起こっていない。 | 不測の事態に対応できる環境作りと、対応策を考え、生徒の心身の変化に対応した生徒指導を行い、安全安心な学校運営を行う。<br>生徒は落ち着いた学校生活をしているように思えるが、不測の事態が起こった時には、基本的な生活に乱れが生じ、修正することが難しい生徒もいるので、早期に発見し対応する。<br>交通安全については引き続き人命の尊重、交通道徳およびマナーを守るよう指導していく。<br>いじめ問題については、教職員全員で取り組み、早期発見早期解決ができるような組織作りと、生徒自身のいじめをしない・させない考えと行動を理解させる取り組みを行う。 |
|        |  | 活動計画<br>(1) 修学困難生へ家庭訪問を実施し就学継続へ向け連携を図った。<br>(2)-1遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導する。<br>(2)-2無断遅刻・無断欠席数調査を月末集計し、多い者への改善指導を徹底する。<br>(3) 毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施して指導を徹底する。<br>(4) 車両登録をさせ、学期初めに安全点検と集会を行い交通事故を未然に防ぐ。<br>(5)-1自転車、バイクを利用して通学する生徒に対する実技指導を行う。<br>(5)-2登下校時、JR箸蔵駅での列車の乗降指導を行う。<br>(あいさつ, 遅刻, 服装)<br>(5)-3教職員一斉による通学路の危険箇所における交通安全指導を行う。<br>(6)-1いじめ問題の早期発見を行う。<br>(アンケート調査の実施)<br>(6)-2いじめ問題の早期解決を行う。<br>(事後指導の確認) | 活動計画の実施状況<br>(1) 修学困難生への家庭訪問が実施できた。<br>(2)-1遅刻カードの使用はできており、その都度指導した。<br>(2)-2無断遅刻・無断欠席数調査を月末集計し、多い者への改善指導を徹底した。<br>(3) 学校再開後毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施して指導を徹底した。<br>(4) 車両登録をさせ、各学期初めに3回安全点検と集会を行った。<br>(5)-1模擬自転車を使い、実技指導を行った。<br>(5)-2登下校時、JR箸蔵駅での列車の乗降指導を行った。<br>(あいさつ, 遅刻, 服装)<br>(5)-3教職員一斉による通学路の危険箇所における交通安全指導を行った。<br>(6)-1いじめ問題の早期発見を行うために、アンケート調査の3回実施を行った。<br>(6)-2いじめ問題等大きな問題は特になかった。 |  |   |

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

令和2年度 学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校 2-X (保健厚生課)

| 自己評価   |   |  |  | 学校関係者評価                          | 次年度への課題と   |  |
|--------|---|--|--|----------------------------------|--|--|
| 重点課題   | 重点目標  | 評価指標と活動計画  | 評価   | 学校関係者の意見                         | 今後の改善方策  |  |
| 生活力の育成 | (全校レベル)<br>(1)生徒一人一人が健康で安全な学校生活をおくる保健厚生への取組の充実を図る。<br><br>(下位組織レベル)<br>(1)組織的な感染症対策の推進を図る。<br>(2)個々の健康管理を支援する。<br>(3)健康安全教育の充実に努める。<br>(4)性に関する指導を推進する。<br>(5)安全教育に対する職員の実践力を高める。 | 評価指標<br>(1)感染症予防についての啓発<br>年12回以上<br>(2)個々の健康管理<br>①健康状態の把握 90%以上<br>②疾病やけがの手当等の理解度 90%以上<br>(3)保健関係ホームルーム活動<br>各学年・年2回以上<br>(4)性に関する指導の理解度<br>90%以上<br>(5)救命救急法等の職員研修受講率<br>100%<br>(6)奨学金案内<br>年2回以上   | 評価指標の達成度<br>(1)感染症予防についての啓発<br>年12回<br>(2)個々の健康管理<br>①健康状態の把握 87.1%<br>②疾病やけがの手当等の理解度 97.8%<br>(3)保健関係ホームルーム活動<br>各学年1回実施<br>(4)性に関する指導の理解度<br>性教育講演会実施せず<br>(5)救命救急法の受講率<br>95%<br>(6)奨学金案内<br>年12回(該当者のみ含む)  | 評定<br>A<br>B<br>B<br>C<br>B<br>A | 総合評価<br>B<br><br>評価指標関連については概ね達成できたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の計画が実施できない項目もあった。<br>今年度は、学校にウイルスを持ち込まない・広げないという意識のもと、全職員で予防啓発や対策に取り組んだ。<br>講演会など制限されたものもあったが、ホームルーム活動や日々の生活を通し、健康への意識を高める機会となった。<br>救命救急法では感染症対策のため実施日を分け、受講率を向上させることにもつながった。 | ○今後も継続した指導を期待している。<br>○新型コロナウイルス感染症の関係で一番気を遣った1年だったと思う。次年度も対策を継続してもらいたい。<br><br>今年度に引き続き、感染症対策の徹底が不可欠である。手洗い・消毒、マスク着用や換気など基本的対策に加え、県や全国の最新状況を把握しながら、有効な対策について啓発活動を継続していきたい。日々の生活の中で、感染症対策が定着するよう努めたい。<br>また、中止や延期となった教育活動をいかに再開させていくかの検討が必要である。オンラインの活用や実施人数の制限など、関係職員で話し合い、教育活動の充実をめざしたい。 |
|        |   | 活動計画<br>(1)保健だよりや掲示物を発行し、感染症予防について啓発する。<br>(2)生徒の健康課題を把握し、保健指導の充実を図る。<br>(3)健康教育ホームルーム活動、性に関するホームルーム活動を実施する。<br>(4)各学年において系統的な性に関する指導を実施するため、年間計画を策定し、関連する各教科と連携を図る。<br>(5)救命救急法等の研修を実施する。<br>(1)~(5)学校保健計画・学校安全計画を作成し、計画的な指導を行う。<br>(6)奨学金の効果的な運用を行う。 | 活動計画の実施状況<br>(1)保健だよりや掲示物を作成し、啓発した。資料には、手洗い、消毒、抵抗力を高める生活等、基本的な感染症対策や、健康観察、密閉・密集・密接を避ける内容等について掲載した。加えて、受診や相談の方法についても県の通知に合わせ情報提供した。<br>(2)三者面談の際、担任から健康診断結果通知を行い、家庭との共通理解を図ることができた。保健室来室者へは、再発防止や適切な対処方法について、理解度に応じた指導を行った。<br>(3)1・2年生「新型コロナウイルス感染症について」3年生「生涯にわたる健康」について各1回実施した。<br>(4)性に関する指導年間計画を策定した。性教育講演会は感染症の影響で実施を見送った。指導が必要な場合は、個別に指導した。<br>(5)教職員対象として救命講習を実施した。消防署員を講師として2日間に分け、小グループで実習した。<br>(1)~(4)年度当初に学校保健計画と学校安全計画を策定し、全教職員で共通理解を図るとともに、計画的かつ継続的な指導を行った。<br>(6)教室掲示や担任から直接該当者に案内した。生徒9件、施設設備1件申請した。 |                                  |  |  |

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

令和2年度 学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校 2-Ⅲ・Ⅳ(保健厚生課・特別支援)

| 自己評価          |   |  |  | 学校関係者評価          | 次年度への課題と  |  |
|---------------|---|--|--|------------------|---|--|
| 重点課題          | 重点目標  | 評価指標と活動計画  | 評価   | 学校関係者の意見         | 今後の改善方策   |  |
| 生活力ソーシャルスキル育成 | (全校レベル)<br>(1)教育相談活動の充実と生徒支援に努める<br><br>(2)生徒一人一人を理解し、個々の生徒のニーズに応じた支援を進める<br><br>(下位組織レベル)<br>(1)教育相談体制(特別支援を含む)の充実を図る。<br><br>(2)生徒理解を進めるために各種検査を効果的に実施する。<br><br>(3)特別支援教育職員研修の充実を図る。 | 評価指標<br><br>(1)教育相談体制の充実<br>教育相談日を設けカウンセリングを行う。 100回<br><br>(2)各種検査(教研式高校知能検査・学級満足度調査QU)による生徒理解(各学年)<br><br>(3)特別支援教育職員研修会の実施年 2回以上  | 評価指標の達成度<br><br>(1)教育相談体制の充実<br>教育相談日を設けカウンセリングを行った。 のべ644件(1月末時点)<br><br>(2)各種検査(教研式高校知能検査・学級満足度調査QU)による生徒理解に努めた。(各学年)<br><br>(3)特別支援教育職員研修会 1回<br>新規にモデル高校連携事業を実施 1回   | 評定<br>A<br><br>B | 総合評価<br><br>B<br><br>-----<br>年度当初の計画ではカウンセリングは100回としたが、のべ回数が5倍以上に達しており、予定以上に実施されている。全員に対して一通りカウンセリングをしてその中から継続的なカウンセリングにつながることもあり、定期的または臨時にカウンセリングをする機会も多くあった。<br>研修も講演だけでなく和やかな雰囲気です座談会を実施し好評だった。 | ○今後も継続した指導を期待している。<br>○今後も生徒一人一人あったカウンセリング等を実施してほしい。併せて情報共有を図り、今後の指導に生かしてもらいたい。<br><br>カウンセリング体制は整っているがその情報をどう生かすかが課題となる。<br>特別支援モデル高校連携事業をさらに充実させるために、気軽に情報交換できる座談会を複数回実施したい。 |
|               |   | 活動計画<br><br>(1)次のことに配慮した相談を実施<br>①スクールカウンセラー・教職員への親しみやすさ<br>②スクールカウンセラー・教職員との信頼関係<br>③スクールカウンセラー・教職員との相談の満足<br><br>(2)各種検査を実施し生徒の困難さ・問題を把握し、問題解決に取り組む。<br><br>(3)1学期・2学期にニーズに合った職員研修を実施し、アンケートにより次回内容の選択や改善に活かす。 | 活動計画の実施状況<br><br>(1)スクールカウンセラーのカウンセリングは定着しており、定期的なカウンセリングを受ける生徒も多数いる。一部の情報を各担任と共有できるしくみをうまく活用している。<br><br>(2)今年度から1・2年生に数研式高校知能検査を実施し、1年間の比較が可能になったので今後も追跡調査が可能になった。学級満足度調査QUでは言動と内面が一致しない生徒の把握に大きく役立っている。<br><br>(3)2学期に発達障害について鳴門教育大学小倉正義准教授の職員研修を実施した。専門家によるフォローアップ事業の一環でアイリス梅崎一郎次長に1・2年生のホームルーム活動を参観していただき、1年生担当教員と座談会を実施した。 |                  |   |  |

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった

令和2年度 学校評価総括評価表

| 自己評価   |  |   |   | 学校関係者評価   | 次年度への課題と  |  |
|--------|--|---|---|---|---|--|
| 重点課題   | 重点目標   | 評価指標と活動計画   | 評価  | 学校関係者の意見  | 今後の改善方策   |  |
| 生活力の育成 | (全校レベル)<br>(1)特別教育活動の充実を図る   | 評価指標<br>(1)ホームルーム活動満足度 80%以上<br>(2)生徒会の活動状況<br>学校行事の満足度 90%以上<br>(3)各種専門委員会の活動状況<br>年間活動回数3回以上 80%以上<br>(4)部活動の加入状況 70%以上                                     | 評価指標の達成度<br>(1)ホームルーム活動満足度 89%<br>(2)生徒会の活動状況<br>学校行事の満足度 84%<br>(3)各種専門委員会の活動状況<br>年間活動回数3回以上 100%<br>(4)部活動の加入状況 54%  | 評定<br>A<br>B<br>A<br>C<br><br>総合評価<br><b>B</b><br><br>(所見)<br>コロナ禍で学校行事に制約が課される中、生徒を主体として感染対策の工夫をして実施することができた。その中で、学校への所属感や連帯感を深め、協力してより良い学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的態度を育てることができた。しかし、生徒の満足度は、行事の内容に制限が多かったため、平年よりやや低い数字となった。<br>また、HR活動を通して学年・HR単位での活動、専門委員会での異年齢集団による交流を促し、望ましい人間関係を形成する態度を育てることができた。<br>生徒一人一人が考え、協調し、社会性を高めることのできる生徒会活動、学校行事を目指したい。 | ○今後も継続した指導を期待している。<br>○3年間共に勉学するホームルームでの人間関係を大切にしながら指導を継続してもらいたい。 | 集団や社会の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的態度を育てるために、生徒全員に焦点を当てて、特別活動を行いたい。<br>そのための方策として、アンケート等で生徒の意見をすくい上げ、生徒のニーズに合わせた行事を展開したい。また、生徒会を中心として生徒主体の行事運営をよりいっそう発展させたい。<br>それにより、生徒の心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、自己を生かす能力の向上へつなげていくことが重要である。 |
|        | (下位組織レベル)<br>(1)ホームルーム活動の活発化を図る<br>(2)各種専門委員会活動の推進を図る<br>(3)生徒会活動・部活動の活性化を図る | 活動計画<br>(1)生徒の実態に合わせて授業を展開しよりよい人間関係づくりに努める。<br>(2)各種専門委員会の活動の充実に努める。<br>(3)-1生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。<br>(3)-2前日祭実行委員会の活動の活性化を図り充実に努める。<br>(4)部活動の充実に取り組む。 | 活動計画の実施状況<br>(1)より良い人間関係づくりを促すために、話し合い活動等を活用した授業を展開することができた。<br>(2)計3回の専門委員会を行い、各々の役割に応じた活動に取り組んだ。<br>(3)-1 生徒会活動の年間計画を作成し生徒会活動に活かすことができた。<br>(3)-2 各学年から前日祭実行委員を集めることで、全学年のニーズに合わせて活動を考えることができた。<br>(4)新入生は3つ以上の部活動の見学を促す仕組みを設けた。本年度の1年生入部率は53%で昨年(55%)と大きくは変わらなかった。しかし、1年生の部活動満足度は95%と高く、見学をした上で自分に合った部活動に入部できたものと思われる。 |   |   |  |

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

令和2年度 学校評価総括評価表

| 自己評価   |  |  |   | 学校関係者評価  | 次年度への課題と  |  |  |
|--------|--|--|---|--|-----------|--|--|
| 重点課題   | 重点目標   | 評価指標と活動計画  | 評価  | 学校関係者の意見   | 今後の改善方策   |  |  |
| 生活力の育成 | (全校レベル)<br>(1) 環境教育の推進を図るために、三好校エコスクールの推進と新学校版環境ISOの推進を実践する。<br><br>(2) 学校防災教育の推進を図るとともに、地域防災との連携を図る。<br><br>(下位組織レベル)<br>(1) 校内外の美化活動を推進する。<br>(2) 省エネルギー・リサイクル活動を推進する。<br>(3) 防災学習の充実<br>(4) 防災訓練の充実<br>(5) 防災意識の啓発と防災リーダーの育成を行う。<br>(6) 学校安全計画の作成と学校安全について啓発・実践を行う。 | 評価指標<br>(1) 新学校版環境ISOの内部評価による実態調査で16点以上。<br>①美化・エコ活動の年間達成度 90%<br>②月平均電気使用量 15,000kwh以下  | 評価指標の達成度<br>(1) 内部評価による実態調査で17点となり達成できた。<br>①実施回数3回/11回予定 達成度27%<br>②年平均使用量 16,156kwh   | 評定<br>A<br>B<br>C  | 総合評価<br>B | ○今後も継続した指導を期待している。<br>○学校で学んだことが地域・家庭でも生かせる教育、また、将来を踏まえた視点での指導を実践していただきたい。 | 新しい生活様式を取り入れた計画を立て、安全に配慮した校内外の活動を実施する。そして、地域との防災交流活動を展開し、地域に必要とされる学校づくりを進めていきたい。 |
|        |  | (2) 学校防災の実践活動における実施時数 6時間以上<br>①HRにおける防災・救急救命学習時間の実施 学期に1回 100%<br>②防災避難訓練実施 校内1回、地域との連携活動1回以上   | (2) 6時間実施できた。<br>①学期に1回実施できた。<br>②2回実施  | A<br>A   |           |  |  |
|        |  | 活動計画<br>(1)<br>①-1校内外の清掃美化実践をする。<br>①-2施設設備の補修等即対応する。<br>①-3ゴミの分別100%を目指す。<br>②-1エコキャップの回収と活用を実践する<br>②-2毎月の電気使用量についてデータを配布する。<br>②-3こまめな消灯の徹底など啓発活動を行う。<br>(2)<br>①-1防災学習をして意識を高める。<br>①-2救急救命の適切な指導をする。<br>②-1災害発生時の生徒・職員の生命・身体的安全確保を目的とした防災研修を実施する。<br>②-2地域との連携を図り、合同訓練の実施を計画・実践する。<br>②-3学校安全計画に沿った有事の際に対応できる避難訓練を実施する。 | 活動計画の実施状況<br>(1)<br>①-1 月末の美化活動を年間5回実施した。<br>①-2 補修要望に即対応できた。<br>①-3 清掃時に分別について毎日点検した。<br>②-1 40% 2袋分のキャップを回収し、社会福祉活動に貢献した。<br>②-2 毎月のデータ記録をし、電気使用量削減の基礎データとした。<br>②-3 消し忘れについてこまめに連絡した。<br>(2)<br>①-1 学期に1度の防災学習を実施した。<br>①-2 池田消防署より講師を招き防災士受講希望生徒へ3時間の講習をした。<br>②-1 災害時の対応について職員会議後に研修した。<br>②-2 コロナ禍により、実施できなかった。<br>②-3 学校安全計画に沿った避難訓練を実施した。 | (所見)<br>概ね計画に沿って新学校版環境ISO活動が実施できた。本年度は校外の活動に制限があり、地域と連携した防災クラブ活動についてはできなかった。6月にスポットクーラーや窓用エアコンが設置され、昨年度より電気使用量が増えたため、次年度は16,000kwh以下に見直したい。<br>環境防災委員の活動については常に20人程度の生徒が参加し、校内の美化に貢献し、学校の環境美化について積極的に取り組んでいた。<br>学校防災クラブ活動の推進については高校生防災士の募集に5名の生徒からの希望があり、防災意識の高まりを感じている。今後は防災を学んだ生徒が核となり、地域との連携や防災教育について実践を続けていきたい。 |           |  |  |

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

令和2年度 学校評価総括評価表

| 自己評価                     |   |  |   | 学校関係者評価                          | 次年度への課題と   |   |
|--------------------------|---|--|---|----------------------------------|--|---|
| 重点課題                     | 重点目標  | 評価指標と活動計画  | 評価  | 学校関係者の意見                         | 今後の改善方策  |   |
| 進路・<br>キャリア<br>教育の推<br>進 | (全校レベル)<br>(1)一人一人の生徒の適性を踏まえ、能力を生かした進路の実現のための進路指導・キャリア教育を推進する。<br><br>(下位組織レベル)<br>(1)生徒の進路希望の把握と適性・能力を加味した進路意識の高揚に努める。<br>(2)事業所・進学先・ハローワーク等との連携に努める。<br>(3)生徒の学力の実態把握に努め、学力向上を推進する。 | 評価指標<br>(1)3年生進路内定率 100%<br>(2)キャリア・パスポート(5シート・10回)を利用して、自己理解・生徒理解に努める。<br>(3)マナトレ(国・数)実施状況<br>①実施回数 15回以上<br>②7級合格率 50%以上<br>(4)コグトレ実施状況<br>①年45日以上<br>②学期末に振り返り<br>(5)進路講演会及び進路・就職ガイダンスの実施 各学年 年2回<br>(6)「高校生のための学びの基礎診断」の活用<br>年1回 1・2年生3科目                         | 評価指標の達成度<br>(1)3年生進路内定率 97%<br>(2)キャリアパスポート<br>4シート8回実施<br>(3)マナトレ実施状況<br>①実施回数 15回(国・数)<br>②7級合格率 60%(国)42%(数)<br>(4)コグトレ実施状況<br>コグトレ(認知機能向上トレーニング)を60日実施した。<br>(5)効果的な進路講演会及び進路ガイダンスの実施<br>3年1回,2年3回,1年3回<br>(6)「高校生のための学びの基礎診断」の活用<br>1・2年生3科目 5月実施  | 評定<br>B<br>B<br>B<br>A<br>B<br>B | 総合評価<br>B<br><br>年度当初は休校が続き、入試制度が変わったり、就職試験が10月になるなど様々な対応に追われた一年であった。例年に比べ動きだしが遅い生徒もいたが、97%の生徒が進路を決定することができた。また、本年度スタートしたキャリアパスポートは行事の中止で予定した回数できなかったが、担任との面談のきっかけになっているホームルームもあるので、今後もうまく活用していきたい。<br>マナトレやコグトレも例年より回数は減ったが、学び直しのよい機会になっている。内容や方法については検討しなければならないが、継続していきたい。<br>進路ガイダンス等については、中止したり規模を小さくして(来校は県内のみ・県外はオンライン)の実施となったが、生徒のよい刺激につながったと実感している。<br>今後も学年に応じて系統立てた進路計画を展開していきたい。 | ○今後も継続した指導を期待している。<br>○全教員で力を合わせて基礎学力の向上を目指した取組は評価できる。3年生の進路指導も一定の結果を残すことができている。<br><br>○早い段階から進路に向けて勉強等準備を始める生徒がでてきた。基礎学力の定着など社会に出たときに困らないよう早め早めの進路指導を教員の共通理解のもと行っていきたい。また企業の方による職業ガイダンスを増やしていきたい。<br>○今年度は漢字検定に変わり国語のマナトレを導入したが、うまく活用することができなかった。どんな力をつけさせたいかを明確にし、生徒教員ともに同じ目標を持って取り組めるような形に変えていく必要がある。<br>○「キャリアパスポート」や「学びの基礎診断」についても実施するだけで終わるのではなく、振り返ったり補習をしたり等次につなげられる取り組みを考えていく必要がある。<br>○3年かけてステップアップできるよう系統立てた進路指導を行っていきたい。 |
|                          |   | 活動計画<br>(1)就職希望生徒の応募前見学を進学希望生徒にはオープンキャンパスへの参加を奨励・実現する。<br>(2)キャリア・パスポートを利用した面談の実施や、目標を設定し振り返ることで将来への展望を図る。<br>(3)国語・数学の学び直しを実施し、基礎学力の向上に努める。<br>(4)コグトレを実施し、学習の基盤である認知機能の強化をめざす。<br>(5)学校対象のガイダンスや企業と連携した講演会や職業別ガイダンスを積極的に取り入れる。<br>(6)「学びの基礎診断」を活用し学力向上と学習意欲の向上につなげる。 | 活動計画の実施状況<br>(1)第一希望の企業・進学先へは全員が応募前見学や進学説明会に参加することができた。<br>(2)キャリアパスポートを記入させることで、担任との面談のきっかけにすることができた。<br>(3)各ホームルームに2～3名教員を割当て、国語は15分間、数学は25分時間を設定し15回実施した。<br>(4)コグトレを実施したあとの振り返りを取り入れることで自分の成長や苦手分野を知ることができた。<br>(5)企業のガイダンスや講演会を増やすことができた。各学年に応じて、充実した内容の講演会やガイダンスが実施できた。<br>(6)5月に1・2年生で3科目実施した。 |                                  |  |   |

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

令和2年度 学校評価総括評価表

| 自己評価   |  |  |   | 学校関係者評価                               |   | 次年度への課題と今後の改善方策  |  |
|--------|--|--|---|---------------------------------------|---|--|--|
| 重点課題   | 重点目標   | 評価指標と活動計画  | 評価  |                                       |   | 学校関係者の意見   | 今後の改善方策  |
| キャリア教育 | (全校レベル)<br>(1)特色ある農業教育の推進を図る。<br>(2)地域産業の担い手育成に関する地域連携を推進する。<br>(下位組織レベル)<br>①地域連携の推進を図る<br>②教職員の資質向上を図る<br>③資格取得の推進を図る<br>④農業クラブ活動の活性化を図る | 評価指標<br>(1)課題研究成果の充実 (3研究以上)<br>(2)農業研修会への参加 年間3回以上<br>(3)学校開放講座参加者の満足度  | 評価指標の達成度<br>(1)研究成果を校外にて報告 なし<br>(2)校外研修への参加 年間3回<br>(3)学校開放講座参加者の満足度   | 評定<br>ー<br>B<br>A<br>C<br>ー<br>B<br>A | 総合評価<br>B<br>学校の新しい生活様式の中で、これまでの「地域貢献」を核とした専門教育の取組が昨年のように実施できない状況下ではあったが、感染予防の徹底やオンラインを活用するなどの工夫を凝らし、特色ある農業教育を実践することができた。<br>地域・企業・校種間と連携した様々な取組を行う中で、豊かな人間性や社会性を高めることができた。また、達成感や自己肯定感を得る機会を通して、他の学習活動や学校生活に積極的に取り組む姿勢が養われた。<br>さらに、地域の課題解決に向けた取組・研究は生徒の思考力・判断力・表現力の育成につながった。<br>資格取得について指導体制が組めたが合格率を上げる成果にはつながらなかった。 | ○先生方の指導のもと生徒の皆さんが何事にも積極的に取り組まれている姿勢が素晴らしい。是非継続してもらいたい。<br>○今後も継続した指導を期待している。<br>○地域の特色に合わせた商品開発等工夫された取組は評価できる。 | コロナ禍において、地域と連携した体験的・協働的な学習活動は困難ではあるが、新教育課程の中核である資質能力の育成を重視した「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた新たな授業づくりに取り組む必要がある。<br>これまで培った専門教育活動の振り返りを行い、ICTを活用したオンラインでの交流など教育内容の充実を図る。<br>今後も、生徒の課題・地域の課題を常に把握し、その解決を目指す取組を充実させることが、本校農業教育の活性化につながると捉え、現在の取組を継続、深化させたい。<br>教職員が協力して常に教育活動の充実・改善を図り地域・保護者・生徒から信頼され、地域に根ざした学校づくりを推進し、県内外から選択される魅力ある学校を実現するよう努めていく。 |
|        |  | 活動計画<br>(1)-1農場生産物を活用した6次産業化を推進する<br>(1)-2地域貢献からエシカル消費を推進する<br>(2)教職員の資質向上を目的とした校外研修等に参加する<br>(3)学校開放講座の実施により、地域連携を推進する<br>(4)農業技術検定に対応した補習体制を構築する<br>(5)生徒の意識の高揚を図り、学校農業クラブ活動を活性化する<br>(6)先進地研修や地域と連携した研究など専門教科の充実を図り、農業への関心・意欲を高める。<br>(7)実習ノートを活用し、実習科目の充実を図る | 活動計画の実施状況<br>(1) -1他校・企業と連携し、6次産業化を意識した商品試作を行った。<br>(1) -2環境保全・地産地消等、農林業を学ぶ日々の学習活動の実践からエシカル消費を発信することができた。<br>(2) 農業指導の技術向上に努めるため、先進地研修や講習会に参加した。<br>(3) 生徒が日頃の学習成果を披露する場となり、自己肯定感が高まった。<br>(4) 全農業教員が指導にあたり、補習計画どおり実施できた。<br>(5) 全ての農業クラブ競技会が中止となり十分な活動ができなかった。<br>(6) コロナ禍の影響が心配されたが、年間48回地域や大学等と連携・協働した取組を実施できた。<br>(7) 実習内容と自己評価を記入することで、態度や行動力の向上が見られた。 |                                       |   |  |  |

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

令和2年度 学校評価総括評価表

| 自 己 評 価     |   |   |   | 学校関係者評価   | 次年度への課題と  |  |
|-------------|---|---|---|---|---|--|
| 重点課題        | 重点目標  | 評価指標と活動計画   | 評 価   | 学校関係者の意見  | 今後の改善方策   |  |
| 人権意識<br>の高揚 | (全校レベル)<br>(1) 同和問題を中核に据え、<br>様々な人権問題の学習をす<br>ることで、差別や人権問題<br>の解決に主体的に取り組む<br>生徒を育てる。<br><br>(2) ホームルーム活動を通じ、<br>学年やホームルームの枠を<br>超えた仲間づくりを目指す。<br><br>(3) 日々の生活や研修等を通<br>じ、教職員の人権意識を高<br>めていく。<br><br>(下位組織レベル)<br>(1) 人権教育ホームルーム活<br>動の内容や授業方法の充<br>実を図る。<br>(2) 「学校人権の日」の取組<br>や内容の充実を図る。<br>(3) 主体的に考え、行動でき<br>るような活動を増やす。<br>(4) 人権教育教職員研修の充<br>実を図る。特に若い先生<br>への研修を充実させる。<br>(5) 自尊感情や自己肯定感を<br>育む授業をし、正しい職業<br>観を身につけたり、いじめ<br>などを防止する。 | 評価指標<br>(1) 同和問題についての学習を各学年で<br>年間1回以上実施。<br>(2) 学年(1・2組) 合同のホームル<br>ーム活動を各学年で年1回実施。<br>(3) 活動的な人権ホームルームを各学年<br>2回以上実施。<br>(4) 新規の人権ホームルーム指導案作成<br>1つ以上。<br>(5) 教職員人権教育研修会年3回以上。<br>(6) 人権新聞の発刊 年3回以上。  | 評価指標の達成度<br>(1) 11月のホームルーム活動で各学年<br>とも実施した。(1・3年は3回)<br>(2) 各学年とも1回ずつ実施した。<br>(3) 講義形式だけではなく、積極的<br>に意見がいえる学習形態で行えた。<br>(4) 各学年で毎回、新規の指導案を<br>作成してもらった。<br>(5) 2回実施。<br>(6) 発刊できていない。   | 総合評価<br><div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</div> (所見)<br>本年度は講演会や人権コンサ<br>ート、楓祭での人権展など、<br>コロナ対策で実施できなかった。また学習活動においても、<br>グループワークやディスカッ<br>ションなどを取り入れること<br>が難しい状況であった。しか<br>しその分、ホームルーム活動<br>の指導案・ワークシート・パ<br>ワーポイントなどの作成、人<br>権の日の資料作成などには各<br>学年・各担任が人権教育主事<br>と相談しながら、創意工夫を<br>凝らし、知識を入れながらも<br>自分の問題として考えらるよ<br>うな学習活動ができた。<br>近年の教育現場では、教員<br>にも同和問題について知らな<br>い世代が増え、また同和教育<br>から人権教育への移行により<br>「しなくてもよい」という風<br>潮になってきているが、同和<br>問題解決のために培った手法<br>や理念は、その他の人権問題<br>解決の基板となるものである。<br>本校では本年度も計画的に学<br>習内容として入れ、生徒のみ<br>ならず、若い教員の意識・技<br>術向上の機会とした。 | ○今後も継続した指<br>導を期待している。<br>○社会人として適切<br>な対応ができる指<br>導の充実が望まれ<br>る。 | ①生徒の実態に応<br>じた学習内容を精<br>選する。年々生徒<br>を取り巻く環境は<br>変わってきており、<br>新しい観点での人<br>権教育が必要にな<br>る。就職する生徒<br>が多い本校にとっ<br>て、社会に出て直<br>面しそうな問題に<br>ついて考えさせる<br>(コロナ罹患者へ<br>の差別、ブラック<br>企業、SOGI、<br>DV、児童虐待な<br>だ)。<br>②行動力をその基<br>盤になる知識を入<br>れておく。自分が<br>人権問題の当事者<br>になった時、どの<br>ように対応し行動<br>すればよいかをし<br>っかり身につける。<br>そのためにも校内<br>にとどまらず、地<br>方自治体や関係機<br>関などの情報を伝<br>え、授業や講演な<br>どでも協力しても<br>らいながら教育活<br>動をする。 |
|             |   | 活動計画<br>(1) 学校の活動内容や生徒の実態に合わ<br>せた内容で同和問題を学習し、同和問<br>題の解決に向け、主体的に行動できる<br>ようにする。<br>(2) 人権教育課とホームルーム担任との<br>連携で教材を作成する。<br>(3) グループワークやロールプレイング<br>など活動的な内容を取り入れた人権ホ<br>ームルームを行う。視覚的教材も充実<br>させる。<br>(4) 各研究会や主事研修会などの内容<br>をまとめ、教職員の教材研究に役立て<br>てもらおう。<br>(5) 最新の情報の収集に努める。<br>(6) 毎日の生活にある人権問題について<br>提議し、身近な問題について考えさせ<br>る。 | 活動計画の実施状況<br>(1) 1年生では「同和問題とは何か」と<br>いうところから始まり、その後「識字」<br>について学習。2年生では「牛を屠る仕<br>事」という観点で、3年生では「就職差<br>別」「結婚問題」という観点から同和問<br>題について学習した。<br>(2) 指導案作成の指導においてすべての<br>学年に関わった。<br>(3) コロナ対策で話し合いやグループワ<br>ークなどを取り入れることが難しかった<br>が、授業展開などで主体的に考えられる<br>ような工夫をした。<br>(4) 指導案の作成には毎回助言をした。<br>授業の取り返しのために研修時間を十分<br>に取ることができなかったが、職員会議<br>の時などを利用した。初任者研修と講師<br>の先生の研修が十分にできた。<br>(5) 人権の日の資料作成のみにとどまっ<br>た。人権講演会や映画会なども実施でき<br>なかたかった。 |   |   |  |

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要

令和2年度 学校評価総括評価表

| 自己評価         |  |   |   | 学校関係者評価                     |  |   |   |
|--------------|--|---|---|-----------------------------|--|---|---|
| 重点課題         | 重点目標   | 評価指標と活動計画   | 評価  |                             | 学校関係者の意見   |   |   |
| 開かれた学校づくりの推進 | (全校レベル)<br>(1)教育活動の公開及び情報発信により本校教育への理解と関心を高め、地域の教育力強化を図る。<br><br>(下位組織レベル)<br>(1)幼小中学校へ情報発信(異校種間連携)を行う。<br>(2)地域社会との連携による諸行事に参加し学校の活性化に取り組む。<br>(3)学校Webページを活用し魅力情報の発信に努める。<br>(4)学校行事を活用してPTAの協力関係を強める。<br>(5)三好3校の特長を生かした連携活動を推進し、三好地域の協力関係を強める。 | 評価指標<br>(1)学校Webページの情報発信状況<br>年間100回以上<br>(2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数<br>25回以上<br>(3)学校開放講座の参加者の満足度<br>100%<br>(4)保護者の学校行事等への参加状況<br>年間100人以上<br>(5)3校の連携行事実施<br>1回以上  | 評価指標の達成度<br>(1)学校Webページの情報発信状況<br>年間132回<br>(2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数<br>5回<br>(3)学校開放講座の参加者の満足度<br>100%<br>(4)保護者の学校行事等への参加状況<br>年間21人<br>(5)3校の連携行事実施<br>2回  | 評定<br>A<br>C<br>A<br>C<br>B | 総合評価<br>B<br><br>各学科の特性を生かした取組内容を、機会あるごとに学校HPを通じて発信することができた。また、専門高校の特性を活かした地域連携活動など、新聞、テレビ等で取り上げられ、本校の活動を広く広報することができた。<br>また、コロナ禍ではあったがPTA役員をはじめ、保護者の方々のご理解とご協力のもと、感染拡大予防策を講じながら、体育祭を始めとする各種学校行事を開催することができた。 | 学校関係者の意見<br>○今後も継続した指導を期待している。<br>○地域に必要とされる学校、地域を大切にする学校として非常に頑張っている。継続した活動をお願いしたい。<br>○新聞、テレビ塔のメディアをとおり、生徒の活動を知ることができた。 | 次年度への課題と今後の改善方策<br>withコロナ時代に対応した新たな取組・PR方法を考える必要がある。<br>PTA活動の新しい形について、情報を収集し、行事計画改善に繋げていくことにより、本校教育活動への理解を深めていただき、協力体制の更なる構築を図る。<br>保護者・地元の方々との交流・報道等をとおして、本校の教育内容を広く広報するとともに、池田高校本校・辻校・三好校の特徴を活かした連携活動を推進していく。 |
|              |  | 活動計画<br>(1)各分掌担当者との連携を図る。<br>(2)-1幼稚園、小学校に食農教育の教材の提供を行う。<br>(2)-2地域のイベント等に参加し、本校教育を広く広報する。<br>(3)体験入学、開放講座などを実施して本校教育への理解を図る。<br>(4)行事への参加者増加を進め、教育内容の理解度促進とPTA活動の活性化を図る。<br>(5)三好3校の生徒が関わる行事を実施し、連携を強める。 | 活動計画の実施状況<br>(1)PTA役員会での熱心な協議を経て、新たな生活様式の中での各種行事の実行につなげることができた。学校Webページは、生徒の活動を中心に効果的に発信することができた。<br>(2)-1幼稚園・小学校での食育教育、農場を開放しての野菜・果樹の収穫体験など異校種との連携活動は学習意欲の向上と社会性の醸成につながった<br>(2)-2地域イベント等は中止となったが、産直市への出品等で本校教育活動を広報することができた。<br>(3)体験入学は中止。開放講座は予定どおり5日間実施でき、大変好評であった。<br>(4)感染拡大防止策に対して、PTAのご理解とご協力を頂けた。<br>(5)辻校と協力し、6次産業化商品開発についての連携活動を2回実施したが、池田高本校との連携活動は実施できなかった。 |                             |  |   |   |

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要

令和2年度 学校評価総括評価表

| 自己評価  |  |   |   | 学校関係者評価   | 次年度への課題と   |
|-------|--|---|---|---|--|
| 重点課題  | 重点目標   | 評価指標と活動計画   | 評価  | 学校関係者の意見  | 今後の改善方策  |
| 働き方改革 | (全校レベル)<br>(1)業務の適正化と持続可能な学校作りを推進する。<br><br>(下位組織レベル)<br>(1)業務改善の推進<br>(2)外部人材の活用<br>(3)保護者・地域への理解促進 | 評価指標<br>(1)有給休暇5日以上取得 100%<br>夏休5日取得 100%<br>(2)会議の精選<br>(3)ノ一部活デーの設定<br>原則：毎週日曜日，第1水曜日<br>(4)外部人材の活用<br>林業教育他2科目で実施<br>(5)教職員数の確保<br>学校図書館司書，進路事務等を確保することにより教員の負担を軽減する | 評価指標の達成度<br>(1)有給休暇5日以上取得 80.0%<br>夏休5日取得 88.0%<br>(2)昨年度とほぼ同数。<br>(3)日曜日の活動はほぼ無かったが，水曜日の活動は徹底できなかった。<br>(4)外部人材は2科目で実施できた。<br>(5)年度内に学校図書館司書及び進路事務の雇用で教員の負担軽減につなげることができた。  | 総合評価<br><div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</div> | ○先生方の共助により，十分な休暇の取得が可能となるようお願いしたい。<br>○夏休の完全取得を期待する。<br><br>○引き続き年休所得5日以上，夏休の完全消化を推奨する。<br>○出退勤システムを活用し，1ヶ月の残業時間42時間以下，となるように推奨する。<br>○外部機関，外部人材を活用し教職員の負担軽減に努める。<br>○過度な負担を抱える教職員へのサポート体制を構築する。<br>○学校図書館司書，進路事務等を確保することにより，教員の負担を軽減する。<br>○「土曜授業」等による代休取得率を100%とする。<br>○「学校運営協議会」や「徳島GIGAスクール構想」等教育環境を整備し，教職員の負担軽減へつなげる。<br>○「一年単位の変形労働時間制」の制度開始に当たり，制度を利用しやすい職場環境の醸成に努める。 |
|       |  | 活動計画<br>(1)管理職による休暇取得状況の把握。<br>(2)会議を精選し，時間短縮に努める。<br>(3)管理職による実態把握とノ一部活デーの推進<br>(4)外部人材を有効に活用することにより，教員の負担軽減に努める。<br>(5)ハローワーク等を活用し求人を行う。                              | 活動計画の実施状況<br>(1)休暇取得状況をシステムにより確認することで，休暇取得を奨励した。<br>(2)会議は必要最低限に留めたが，コロナウイルス感染症対策等により実施回数削減までには至らなかった。<br>(3)体育部に関しては，競技の特性，生徒の実態，大会等により，徹底することができなかった。<br>(4)県の事業に応募することにより，外部人材の活用を努め，2科目で実施できた。<br>(5)司書の採用に関しては，ハローワークで，進路事務は校内で確保することができた。 |   |  |

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。